

緑農住まちづくりに 参加してみませんか？

まずは、今ある取組を知って、参加してみることから始めませんか？

みなさんが「やってみたいこと」・「まちにあるといいな」を実現するための空間として、身近な緑や農地を活用して下さい。みなさんができることから緑農住まちづくりに関わることで、もっと新しく楽しいまち、東京になっていきます。

都内にくらすみなさんへ

東京は、都会のくらしと開放感ある緑・農地の空間のどちらも楽しめる空間です。身近な緑や農地はみなさんの様々なライフスタイルに応えるポテンシャルを持っています。緑農住のまちはみなさんのくらしをより豊かで快適なものにします。



農地、里山、屋敷林等の 所有者のみなさんへ

農産物の販売やイベント等を通じて、まずは都市農業のこと・その緑のことを地域に知ってもらいましょう。地域とつながり、理解を得ることで、そこで得た人脈から新たなビジネスや地域協力が生まれるかもしれません。また、緑・農の多様な機能をいかすことで、地域課題の解決にも貢献できるかもしれません。

緑農住 まちづくりの 輪

都内で働く・事業を営む みなさんへ

農業者の中には、他業種とのつながり、事業の多角化を考えている人もいます。緑農住まちづくりでは、新しい事業を受け止める場所や様々な人たちとつながる機会があります。様々な主体と連携して新たな事業を展開してみませんか？



まちづくり、環境保全、 地域課題解決等に取り組む NPOや団体のみなさんへ

緑農住まちづくりは行政の力だけでは実現できません。みなさんは地域住民と行政をつなぐ重要な役割を担っています。行政と連携しながら、みなさんの豊富な経験やノウハウを活用し、地域の課題解決に取り組んでみませんか？緑地や農地が生む様々な資源や機能をいかして新たな取組ができるかもしれません。

緑農住まちづくりを実現するための手法例

農の風景育成地区制度

東京都が平成23(2011)年に創設した、農地や屋敷林等がまともに残る地区を指定して、地域のまちづくりと連携しながら農地や屋敷林等の保全を図り、農のある風景を保全、育成していく制度です。

農の風景育成地区内では、農に触れ合える拠点の整備や様々な取組を通して、地域住民等による農業への理解が深まり、農地や緑地の保全に向けた機運が培われています。また、地区の指定に当たって、自治体や農家、地域住民等による話し合いにより、まちの将来像の共有や取組について理解や協力が進むことも指定効果の一つと考えられます。

緑農住まちづくりを進める際の一つのツールとして、本制度の活用が期待されます。



農業公園の設置
(喜多見農業公園・世田谷区)

出典：一般財団法人都市農地活用支援センター
「東京都農の風景育成地区」の第1号指定地区」
<http://www.tosinouti.or.jp/living/case01.html>



収穫体験の様子(練馬区南大泉)

出典：練馬区「農の風景育成地区農地保全事業」
https://www.city.nerima.tokyo.jp/kankomoyoshi/nogyo/hureai/nounohuukei_.html



直売所を通じた地産地消
(練馬区高松)

※ 詳しいご案内は、東京都都市整備局「農の風景育成地区制度」ホームページをご確認ください。
https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/seisaku/midori_kakuho/chikuseido.html



緑農住まちづくりがつくる新しいくらしと社会

身近な緑や農地とくらしが融合した緑農住まちづくりに取り組むことは、単に「楽しい」や「おもしろい」だけではありません。

身近な緑や農地が多様な取組・事業とつながり、地域のくらしに定着することで、まちに様々な好循環をもたらす、緑や農地の保全や増加にもつながります。

このように、緑農住まちづくりは、身近な緑や農地を活用することで環境保全を図りながら、食料の生産、交流促進、健康づくり、防災等の多様な機能をいかして地域課題を解決し、また、くらしに新たな価値をもたらすことができます。緑や農地を東京のまちに残すことが、持続可能な都市づくりにつながり、ひいてはSDGsの実現にもつながっていくのです。

楽しくて、おもしろくて、社会にも環境にもやさしい緑農住まちづくり。東京だからできる新しいくらしを通じて、より良い社会を実現していきませんか？

Q & A

どうやって
見つけたらいい？
参加のハードルが
高そう・・・

疑問にお答えします！

Q 収穫体験や農業を
趣味にしたいです。
どうやって参加すれば良いですか？

A お住まいの自治体や農業者のHPやSNSに情報がありません。また、農業者の作業をお手伝いするボランティアになるための講習や手伝いを募集している自治体もありますので、ご自身にあった方法で参加してみてください。



Q 新たな事業展開のために
連携できる農業者や他業種の人と
つながりたいです。

A まずは、地域でどのような取組があるかについて行政やJA等から情報を得たり、得た情報をもとにマルシェやイベント等に足を運んでみてください。新たな人脈ができ、連携のヒントが得られるかもしれません。



Q 子供と遊べる公園や里山の
情報を知りたいです。

A 【公園】お住まいの自治体のHPのほか、東京都の施設であれば、目的・場所等から検索可能な「公園へ行こう!」ホームページから検索可能です。

公益財団法人東京都公園協会
「公園へ行こう!」HP
<https://www.tokyo-park.or.jp/search/>



【里山】地図やリストから都内の里山の情報が検索可能です。

東京都環境局「里山へGO!」HP
<https://www.tokyo-satoyama.metro.tokyo.lg.jp/map/>



Q 農業者が農産物の
直売等を通じてPRする以外に、
地域理解を得られる方法を知りたいです。

A 農には多様な機能があります。農業体験の機会提供やイベント開催、防災協力農地への登録等、地域のために農地が出来ることは数多くあります。ぜひ行政やJAに相談してみてください。地域の課題に対し、みなさんの農地でできることがきっとあるはずです。



緑農住まちづくりのアイデアをつくろう！

みなさんのアイデア・取組で緑農住のまちをつくりましょう

緑農住まちづくりの取組は、このパンフレットだけでは紹介しきれません。地域の数だけ、活用できる場所の数だけ、関わる人の数だけ取組が生まれるポテンシャルがあります。緑農住まちづくりの考え方に沿って、新たなライフスタイル・ワークスタイルを実現するためのアイデアを書き込むページとして活用してください。

使い方

- ① このシートを参考にアイデアを考えてみましょう
- ② 仲間を募りましょう(一緒に考えても良い!)
- ③ 住民/連携先に提案して具体化しましょう

こんな場面で使ってください

- 学校・教育現場の教材に
- 新しい取組を考える時の企画ペーパーとして
- 地域住民や協力先等へ、事業を説明したい時に

取組のタイトル

「どこ」で行う取組?
(具体的な場所があれば書いてみよう)

「だれ」にとってうれしい取組?
まちにはどんな効果がある?

「なに」をする取組?
その中で譲れないことや一番のポイントは?

「だれと」協力してやってみる?
(連携できそうな人・企業・団体)



本ハンドブックは、東京都の「大学研究者による事業提案制度」により東京大学の提案を受けて実施した「新しい『緑農住』まちづくり事業」において、同大学と協働で作成した「『緑農住』まちづくりガイドライン」とあわせて、同大学の協力を得て作成したものです。

区市町村担当部署

(緑農住まちづくりについての相談先)

緑農住まちづくりについて、より詳しく知りたい方は、東京都都市整備局のホームページをご覧ください。

東京都 緑農住まちづくり



で検索

「緑農住まちづくりハンドブック」

令和4年3月発行

<編集・発行>

東京都都市整備局都市づくり政策部緑地景観課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
東京都庁第二本庁舎12階中央
TEL:03-5388-3315